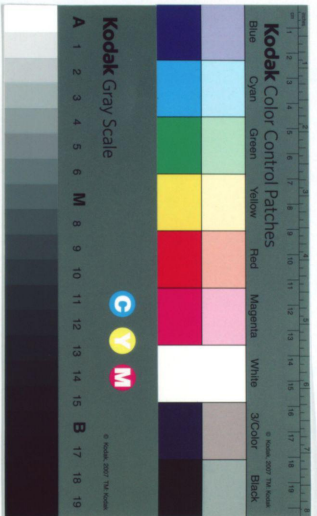




花月水

728
#



掛 鴻 四 郎 氏 寄 贈
111

昭和華文化会
第 218 号
51038

A72 A728
千 弐

崎松庵主人の春の國西尾の人也總角れ

ころより他地の癖ありて日暮夜合ふ

志は五十歳の切はゆきまの遊業をこれ興と

ゆふのふしむきむらひの人某たるふらむら

れも本となんこと成るまひくもあそん

のひさ水々さとの一花月夜を庭つきと

梓にちりて先世よりむむしてけいれを

予ふりとの理くまにむあそいぬ



尾藩

松雲齋主人



眼負馬那哉
殘錦平偏秦
城潤畫筆

尺三寸五分

四寸五分

子未年

家信

七

枝繁連鈴雲

面枝花薰紫

蔚凱風福

水くお次をか

袖の巻とこあ

峰をみくくしり

くくやあ

瑤池便是尋
香号此夜清
明玉亦如

有水面

あまのこゝろ

こゝろ

あまのこゝろ

銀河沙漲三

千畧梅嶺屯

再一万

株

言也乃之本

そるそはふさ

しよとてい

しんくを

し

正月柳

うらなひいさまら
の瑞のいほちねや
日成魚くさじり
あをちよれい

鶯

まゝそそきくく
まにぬわ戸
うらひあふあふ
ま乃ひり

二月 被傳

概

のしを

乃也

ふとの

此記に
空は
奴

雛

将

其乃

ふとの

流

うす

ぬ

と

此

三月藤

仍去れ

ゆり

ホ

うきうき

はの 友の

色 友の

雲雀

雲雀

聖

なつ床

うきうき 為り

四月卯花

東州懐土の春

海をてふ夏はそ

垣根とあま

はちのこのえ

昭

河島

中へお浪志の

はらへし里なる

まへこころなる

とけさこまら

虫月 意橋

かほす

阿多啼や

おふふ

うらこの

水の

君か

うら

おの

り

水鶴

うらや

橋乃戸を

あやめ

れ

うらう

軒若

うらひの

うら

あ

暖平

六月

大に此日記

亦に其の

法に其の

之を其の

なり其の

瞿麦

鶴

みこの鶴

川よ其の

亦に其の

なり其の

三月

如そ

七月

少所奉

あひ

林

星の

傳

る
は
ら
た
り
や
誰
に

鶴

なぐり

契

とそ

ふ

は

あさ

う

と

し

鶴の

か

木

秋のあけのけ

さきく吹風

八月 為鳴草

中そらあふ

あはれさ

さう 結を

うら ーさ

初鴈あけのけ

れ たのすも秋乃

い急 戸小

大

九月

薄

電すに

孝女使の

病室と

とすられ

好くはあ

はと糸作

鴉

いしめい

あつらひ

わ

あまのり

うつら

河内
乃西
山信
田多
新
夕
新
年
秋
轉

十月
残
華
神
王
朝
月
由
何
爾
見
此
年
亦
乃
其
年

木

十二月 枇杷

冬に日々に 葉を魚ね
枝を茶

本草のこ

とぬきあり
る

冬に月

子鳥

ちりり鳴

みり

ちりり鳴

かまの 河 山あり

樹に

水

神 農

の月



十二月早梅

さうはむじらみ

雪のふりかへ

少々のちり

少々の梅

右名因社中へ送る

於控京師大首書

花鳥帖池光巻也

幸山良秀

天保九年戊戌春

尾張書肆 皓月堂文物

名古屋大坂町

愛知県



1103283085